

令和三年度 神奈川県立よこはま看護専門学校  
一般入学試験 問題用紙 国語

受験番号
氏 名

注意事項

- \* 指示があるまでは中を見てはいけません。
- \* 解答はすべて解答用紙に記入してください。
- \* 問題用紙と解答用紙それぞれに受験番号、氏名を記入してください。

\*文字は丁寧を書くこと。漢字は楷書で書き、略字やなぐり書きの文字は不可とする。  
\*問題文中から抜き出して答える問題、及び解答に字数制限の指示がある問題については、特に指示がなければ、句読点・記号などは一字に数え、指定の字数に含むものとする。

一 次の語句の意味として正しいものをそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

1 他山の石

- ア 他人のつまらない言動も自分の反省や勉強の助けになる。
- イ 自分のものより、他人のもののほうが良く見える。
- ウ つらくても辛抱していれば報われる。
- エ よいものを手本として修行に励む。

2 自画自賛

- ア 自分がした悪い行為の報いを自分の身に受ける。
- イ 自分の言動のために身動きが取れず苦しむ。
- ウ 自分で自分のことを粗末に扱い、投げやりになる。
- エ 自分で自分をほめる。

3 不条理

- ア 通行止めで先に進むことができない。
- イ 思い通りにならない。

4 グローバリゼーション

- ア 従来の国家や地域の垣根を越えて、地球規模で資本や情報のやり取りが行われること。
- イ 異なる文化を持つ人々がお互いに認め合い、社会参加をすること。
- ウ 情報技術を利用したり使いこなしたりできる人と、そうでない人の間に生じる格差のこと。
- エ 出生数が減ることによって相対的に若年層の割合が減り高齢者の割合が増えること。

5 異義

- ア 作法にあつた振る舞い。
- イ 物事の意味や価値。
- ウ 他と違う意見。
- エ 異なる意味。

二 1〜4の文の傍線部と言葉のきまりや意味のうえで同じ用法のものをそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

1 今から走れば間に合う。

- ア 夜になれば暗くなる。
- イ 決まれば決定に従う。
- ウ 山に行けば雪が降っているだろう。
- エ そばも食べればうどんも食べる。

- 2 秋になると故郷が思い出される。
- ア お客様が帰られる。
- イ 見知らぬ人に話しかけられる。
- ウ 母のことが案じられる。
- エ 美味しいのでいくらでも食べられる。
- 3 腕を蚊に刺される。
- ア 弟が勉強しているので静かにする。
- イ よいことをしたので先生にほめられる。
- ウ 寒いので水が氷になる。
- エ 明日、横浜に行きます。
- 4 急いで駅まで自転車で行く。
- ア 倒れるまで走り続ける。
- イ ここからあの山まで彼の持ち物だ。
- ウ 彼まで風邪をひいてしまった。
- エ 目をつぶってもできるまでになった。

三 次の文章を読んで後の問に答えなさい。

ネアンデルタール人の<sup>①</sup>ノウは私たちの<sup>②</sup>ソセンと同じくらいの大きさだったそうだ。身体はもつと<sup>③</sup>頑丈でたくましかった。ともに生きていた時代もあつたが、3万〜4万年ほど前、彼らは地球上から姿を消してしまった。どうして<sup>④</sup>ゼツメツしたのか。専門家の間では<sup>⑤</sup>諸説あるというが、筆者には<sup>⑥</sup>フシギで仕方がない。強い者が弱者を力で倒すこの世界で、勝ち残るのはむしろ彼らのほうではなかったのか。

「じつは生命の歴史をみると、生き残つたのは強者ではなく、「A」のほうでした」。著書『生き物の死にざま』などで知られる静岡大学教授の稲垣栄洋さん<sup>⑦</sup>(51)はそう教えてくれた。

私たちはつねに未来を意識し、いまを生きている。それを可能にしたのは、弱さゆえに集団性を強め、その<sup>⑧</sup>カテイで仲間が何を考えているのかを「想像する」という力を得たこと。「想像は一人ひとりが異なります。その「B」性が生き残りのカギとなつたのでは」と稲垣さん。

逆に言えば強い者はその強さのために変化を望まず、「B」化しにくい。<sup>⑨</sup>キョウリュウもネアンデルタール人も。「強い者が勝つのではない。勝つた者が強いのだ」とは元サッカー西独代表ベッケンバウアーの言葉だ。きょうは「進化の日」。160年前、進化論を唱えたダーウィンが『種の起源』を出版した日にちなむそうだ。環境の変化に適応できない生き物はいつかは淘汰<sup>⑩</sup>されていく。人類も<sup>⑪</sup>レイガイではない。その強くて弱き存在のあすを想像して、しばし<sup>⑫</sup>謙虚な気持ちとなる。

(二〇一九年十一月二十四日付け「朝日新聞」「天声人語」より)

問1 傍線①～⑩の漢字は読みをひらがなで答え、カタカナは漢字に直しなさい。

問2 「A」に入る語句として適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 変化を嫌う弱者
- イ 変化に勝つ弱者
- ウ 変化しない弱者
- エ 変化に適応できる弱者

問3 「B」に入る語句として適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 必要
- イ 安定
- ウ 多様
- エ 実用

問4 傍線C「その強くて弱き存在」とは何か。文中から単語で抜き出しなさい。

四 次の文章は、『毎日新聞』の「社説 コロナの時代 持続可能な地球へ 立ち止まり変革する時だ」(二〇二〇年八月二十八日付け)である。この文章を読んで後の問に答えなさい。

新型コロナウイルスの感染拡大で、地球環境問題への取り組みが停滞を余儀なくされている。「A」、環境危機は将来にわたって人類を脅かす。

人間の活動がいかに地球を痛めつけているかを表す指標がある。「アース・オーバーシュート・デー」だ。オーバーシュートは英語で「行き過ぎ」を意味する。

1960年代までは人間が1年間に消費する地球資源の量と、その損失を取り戻す地球の復元力が釣り合っていた。人口が増え生活水準が向上するにつれ、オーバーシュートの日付は早まっている。今年は「8月22日」だった。年末まで4カ月間、人類は地球に負荷をかけながら生きることになる。

「行き過ぎ」の重い代償

地球温暖化は、行き過ぎた人間活動が招いた最も重い代償だ。化石燃料に由来する温室効果ガスが地球の吸収力を超えて蓄積した結果、気温が上昇した。

最新の知見では、産業革命以降の上昇幅を1.5度に抑えることで、破局的な被害を回避できる可能性がある。「B」、現状の対策のままでは、2030年には1.5度を超えてしまう。

「1.5度」実現に先進国、途上国の区別なく努力することを定めたパリ協定は、今年が本格始動の年だった。「C」、各国がさらなる努力を確認する全体会合「COP26」は、コロナ禍で延期された。機運の低下が懸念される。

「D」、中国などの新興国では、工場の操業停止や交通量の激減で大気汚染が一時的に改善した。航空機の運航が地球規模で減り、温室効果ガスの排出も抑制された。

多くの人が環境の尊さを実感したのではない。コロナ禍で世界が立ち止まった今を転機として、環境に配慮しながら経済を立て直す挑戦を始めたい。

国際エネルギー機関は、脱炭素の取り組みなどエネルギー政策の転換に、毎年1兆ドル(約110兆円)ずつ3年間投じる復興計画を提案している。

再生可能エネルギーの普及、送電網の効率化などに積極的に投資することで、毎年900万人の雇用が生まれる。実現すれば世界の経済成長率を年平均1.1ポイント押し上げるとも試算した。

欧州では、環境分野への投資で経済復興を目指す「緑の復興」への模索が始まっている。

「人口増加と環境汚染がこのまま進めば地球の成長は100年以内に限界に達する」

世界の知識人や経済人で作る「ローマ・クラブ」は72年、報告書「成長の限界」でそう指摘した。「E」、経済成長に突き進む当時の世界は、警告を真剣に受け止めなかった。

その間に温暖化が進み、気候変動を招いた。熱波や干ばつ、水害が人々の命を奪い、住まいを追われた人々が難民となった。地球と人類の持続可能性が問われる事態が各地で表面化している。

国連のグテレス事務総長は現状を「気候危機」と呼ぶ。手遅れになる前に行動する必要がある。  
温暖化防ぎ経済復興を

日本もひとつではない。独シンクタンクが昨年未公表した「世界気候リスク指数」では、18年に気候変動の影響を最も強く受けたのは日本だった。

政府は「循環型社会」を掲げ、古い石炭火力発電所を整理するなどの方針を打ち出した。「F」国際社会からは依然、温暖化対策に消極的との批判が強い。小手先の対策ではなく、国のエネルギー政策を根本的に見直すべきだ。

② こうした努力は、国連が15年に定めた「持続可能な開発目標（SDGs）」にもかなう。

SDGsは、貧困、差別、自然破壊、温暖化など、人類の危機を克服するための17の目標からなる。国連は全ての加盟国に、30年までの達成を呼びかけている。

財界では、SDGsを重視しない企業への投資を控える動きが出ている。個人レベルでも、熱心に取り組む企業の製品やサービスを選ぶことで後押しできる。

アマゾンの熱帯雨林保護にかかわり、ブラジルの環境相を務めたマリナ・シルバさんは「経済の回復を最優先し、環境問題を後回しにするのは人類にとって重大なリスクだ」と警告する。

コロナ禍で私たちは多くの犠牲を払った。「G」、これまでの暮らしを考え直す時間も与えられた。各国が利害を超えて新しい世界を構築するきっかけとしたい。人類の賢明さが試されている。

問1 「A」から「G」に入る語句として適切なものの組み合わせを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア A 一方 B 一方 C 一方 D だが E 一方 F 一方 G だが
- イ A 一方 B だが C だが D だが E だが F 一方 G だが
- ウ A だが B だが C だが D 一方 E だが F だが G 一方
- エ A だが B 一方 C 一方 D 一方 E だが F だが G 一方

問2 傍線①「8月22日」とはどのような日か。正しいものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 人間の活動がいかに地球を痛めつけているかを示す指標が決まった日。
- イ 生活水準の向上により行き過ぎた地球資源の消費が地球に負荷をかけていることがわかった日。
- ウ 損失を取り戻す地球の復元力が、人間が1年間に消費する地球資源の量を上回る日。
- エ 人間が1年間に消費する地球資源の量が、損失を取り戻す地球の復元力を上回る日。

問3 傍線②「こうした努力」を具体的に述べた部分を10字以上15字以内で抜き出し、そのはじめと終わりの5字を答えなさい。（5字には句読点は含まない）

問4 次の各文の中から、問題文の内容と合うものを二つ選び、記号で答えなさい。

- ア 新型コロナウイルスが感染拡大し、地球環境問題への取り組みが遅れている。各国が地球温暖化に対する努力を確認する「COP26」は延期され、温暖化抑制の機運の低下が心配される。
- イ コロナ禍によって新興国では経済活動が低下し、大気汚染や温室効果ガスの排出が抑制された。このことにより地球環境問題への取り組みが軽視されるようになった。

ウ 温暖化が進み気候変動を招くことで地球と人類の持続可能性が危ぶまれるようになった。

エ 日本は気候変動の影響を強く受けたため対策をとっており、海外からも温暖化対策を評価されている。  
オ 国連が定めた持続可能な開発目標（SDGs）は17の目標からなっており、財界ではSDGsを重視せず、その達成に対しての投資を控える動きが出ている。

五 次の文章を読んで後の問に答えなさい。なお、筆者は文中の「情報」という用語を「心のはたらきや状態を変化させるもの」と定義し使用している。

虹の色はいくつ見えるか

虹が見えるのは、太陽の光が空気中の水滴に当たって、色の波長ごとに違った方向に屈折するからである。日本語を母語として日本の社会で育った人なら、虹の色は紫、藍、青、緑、黄、<sup>だいだい</sup>橙、赤の七色に見えるだろう。フランスの人にも同じように七色に見える。ところが、アメリカ育ちの人には藍色抜きの六色に見え、ドイツだとさらに<sup>だいだい</sup>橙が消えて五色に見える人が多い。

虹の色がいくつ見えるかは、色を表すことばが言語圏や文化圏の中でどう共有されているか、地域社会の人たちが虹の色をどんなことばで表現しているかに依存している。

その一方で、右にあげた国々でも、紫、青、緑、黄、赤は共通である。虹の色の見え方は言語や文化に依存するし、虹の色が二つしかない言語もある。しかし、だからといって光のどのあたりの波長に名前をつけるかについて言語圏の間に共通した規則性がまったくないわけではない。虹の色が波長の近い（日本語でいう）赤とピンクと<sup>だいだい</sup>橙の三色という言語圏は知られていない。つまり、「A」。

さらに、人間の眼の網膜には錐体細胞と呼ばれる形の神経細胞がたくさんある。これらの細胞は多くの人に三種

類あつて、少しずつずれた範囲の波長の光を受け、光のエネルギーを脳の中で処理される情報に変換する。脳の中ではこの情報がさらにいろいろな情報に変換され、色の情報処理が行われる。この脳のメカニズムが世界中の人々の間でそれほど違うわけではない。

虹の色はいくつ見えるかという問題は、一見簡単なようだが、実は右にあげたように、社会、心、脳のすべてにかかわっている。哲学、心理学、人類学、神経科学などが個別に扱ってきた虹の色の問題を、社会、心、脳のすべてを貫いて探究する方法はあるだろうか。

完全とは言えないまでも、その方法として考えられるのが、情報の概念と情報科学の方法論である。社会を人が情報を伝達、交換、共有するシステムとみなすこと、心を概念やことばやパターン（モノの形、色や動き、声の調子、場の雰囲気のように、他の部分と区別できる情報やその集まり）のような情報を処理するシステムとみなすこと、脳を化学的、電気的な情報を処理するシステムとみなすことによつて、虹の色の見え方だけでなく、社会、心、脳にかかわるいろいろな現象を、情報の概念に基づく一貫した方法で理解できるようになる。

青で書いた赤という字

もう一つ色の例を続けよう。青色で書いた「赤」という漢字と赤色で書いた「赤」という漢字がある。漢字を見てその色を言ってみよう。青で書いた「赤」を見せられたら「あお」と言い、赤で書いた「赤」を見せられたら「あか」と言えばよい、簡単なテストである。ところが、やってみるとすぐにわかるが、日本語に慣れた人だと、漢字の意味と実際の色が違うと答えるのに時間がかかる傾向がある。つまり、青で書いた「赤」を「あお」と言うほうが時間がかかる。

① こうしたことが起こるのは、意識にのぼるかどうかは別として、色を表す漢字を見たとき自動的にその漢字の読みや意味が心のどこかに浮かんでしまい、その情報と実際に見た色の情報が心の中に混在してしまうからだと考えられる。

青で書いた「赤」を「あお」と言うときには、多少心の中が混乱するが、それでも一秒弱ぐらいしかかからない。心のはたらきとしては簡単なほうだ。ところが、その活動を引き起こす脳のはたらきは、たいへん複雑である。たとえば、漢字の形や色を「B」する視覚の機能はもちろん、漢字の形や意味や読みを思い出す記憶の機能、何を言うかを判断することばや思考の機能など、いろいろな機能に関連した広い範囲の神経系によつて支えられている。

私たちにとつてはごく簡単に思える心のはたらきにも、脳の中ではたいへん広い範囲の神経系が複雑にかかわっている。心の探究に脳の解明は不可欠だが、脳のはたらきの全貌が明らかになつたとしても、その内容は複雑過ぎて、心のはたらきを説明することは現実にはできないだろう。

恐怖を感じるとき

暗闇を歩いていて背後から「おいっ」という声が聞こえたら、あなたはどうか反応するだろうか。おそらく「こわいっ」と恐怖を感じ、体が硬直する。それから、その体をなんとか動かして逃げようとする。ところが、よく考えてみると、「こわいっ」と意識するより体が反応するほうが早いような気もする。「こわいっ」と意識してから逃げ出すのでは悪漢に殺されてしまいそうだ。

恐怖を意識するのが先か、意識にのぼらない身体的な反応のほうが先かという問題については、一九世紀以来多くの心理学者、生理学者が論争を繰り広げてきた。その結果、脳のはたらきの問題としては一応の答が出ている。

ごくおおまかに言えば、脳の中では、外界から受ける情報のうち、強盗の声や暗闇の暗さなど聴覚や視覚に関する情報は主に大脳皮質を経て処理される。その一方で、発汗や筋肉の収縮のような身体の反応にかかわる情報は主として大脳皮質を経ずに、意識にのぼることなく処理される。二つの経路のうち情報の処理が速いのは大脳皮質を経ない意識下の経路で、したがつて、意識下で起こる身体的な反応のほうが、大脳皮質経由の意識にのぼる活動よりも、基本的には先に生じると考えられる。

ただし、右に述べたことは単純化した話で、実際にはこれらの順序はきわめて微妙である。たとえば、暗闇を歩いているときにはすでに「こわがる」準備ができているのがふつうで、そういう心の準備は意識下と意識のうえのはたらきの順序に影響する。

恐怖の瞬間だけでなく、社会生活のいろいろな場面でも、意識下と意識のうえの機能がどのように組み合わせられて感情のはたらきが生じるかは、状況や文脈に大きく依存する。会いたかつた人に会えると嬉しい。その嬉しさがどのように生じるかは、相手との関係や会つた場などの状況による。できなかったことができるようになること楽しい。その楽しさは、どのくらい努力したか、身につけたことが社会にどう活かせるかなどの文脈による。

意識のうえと意識下のはたらきがどのように作用しあつて感情のはたらきが生じるのか、この問題にも心と脳と社会のすべてがかかわっている。

(安西 祐一郎『心と脳 認知科学入門』岩波新書より)

問1 「A」に入る文として適切なもの一つを選び、記号で答えなさい。

- ア 心のはたらきとしては、色の見え方にある程度の共通点はない
- イ 心のはたらきとしては、色の見え方にある程度の共通点がある
- ウ 心のはたらきとしては、虹の色の見え方は言語や文化に依存する
- エ 心のはたらきとしては、虹の色の見え方は言語や文化に依存しない

問2 傍線①「こうしたこと」とはどのようなことか。次の中から適切なものを二つ選び、記号で答えなさい。

- ア 青で書いた「赤」を見せられたら「あお」と言い、赤で書いた「赤」を見せられたら「あか」と言うこと。
- イ 簡単なテストをしてことばや思考の機能を知ること。

- ウ 漢字の意味と実際の色が違うと答えるのに時間がかかる傾向があること。  
エ 日本語に慣れた人のほうが漢字を読むのに時間がかかること。  
オ 青で書いた「青」を「あお」と言うよりも、赤で書いた「青」を「あか」と言うほうが時間がかかること。

問3 「B」に入る語句として適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。  
ア 鑑別    イ 分別    ウ 識別    エ 判別    オ 弁別

- 問4 傍線②「文脈」の文中の意味として適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。  
ア 話の内容や物語の流れ。  
イ 時間の流れや人間関係、空間的な場との関係。  
ウ 周囲で起こっていることと自分の知っていることとの間の因果関係。  
エ 他者と自分との社会的関係。  
オ 文章中に書かれている言葉の意味。

- 問5 問題文中で筆者が述べている内容と合うものを二つ選び、記号で答えなさい。  
ア 虹の色がいくつに見えるかというような問題は社会、心、脳のすべてにかかわっている。この問題を探求するには情報の概念に基づく一貫した方法で理解することができる。  
イ 虹の色がいくつ見えるかは言語や文化に依存しているとは言えない。人間の眼の構造は世界中の人々の間でそれほど違うわけではなく、光の色の名前には言語圏の間に共通した規則性がある。  
ウ 青で書いた「赤」を「あお」と言うほうが時間がかかるというような簡単な心のはたらきでも脳の中では広

い範囲の神経系が複雑にかかわっており、心のはたらきを説明することは現実には不可能である。  
エ 恐怖を意識するのが先か、身体的な反応のほうが先かということに関しては、意識下で起こる身体的な反応のほうが意識にのぼる活動よりも先に生じることで答が出ており、現在では議論の余地はない。  
オ 意識下と意識のうえの機能がどのように組み合わせられて感情のはたらきが生じるかは言語や文化に依存する。このことは心と脳と社会のすべてがかかわっている。